



三木高大 自治会新聞

令和 6 年 9 月号 (No. 185)

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 尾上 勸
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 2024年(令和6)10月1日

<http://koureisyaigaiku.cccp.jp>

令和 6 年度 グラウンドゴルフ大会のご案内

今年もグラウンドゴルフ大会の季節が近づいて来ました。高大生にとっての一大イベントであるこの大会を待ち侘びている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。今年は、11月7日に下記の要領で開催いたしますが、新たに迎えた34名の1年生の皆さんをはじめ、さらに20名の学友会の皆さんの参加を得てコロナ禍を乗り越えた賑わいのある大会となる予定です。

ご存知のとおり、グラウンドゴルフは、高齢者を中心に各所で楽しまれているスポーツで、ルールが簡単、初心者や体力、技術がない人でも思わぬホールインワンなど好成績が出る可能性もあります。初心者はもちろんベテランプレーヤーでも自分の思い通りに飛んでいかないボールに悩むことも多いと思いますが、広々とした芝生の上で思い切りボールを打って日頃のストレスを解消しましょう。

現在実行委員会では、大会の目的である健康づくりと参加者の皆さんの交流と親睦を一層深めることを念頭に、より思い出深い大会となるよう準備を進めております。大会では、学年別順位(大学生のみ)と個人別順位を競うほか各賞としてホールインワン賞、ベストスコア賞、飛び賞、ブービー賞など多くの賞を用意しておりますので大いにプレーを楽しんで頂きたいと思っております。またこれから大会迄の間、参加学生の皆さんは入賞を目指して練習に励む日々が多くなると思っておりますが、それらの機会を通じて各学年の一層の団結力を高めるとともに個々の実力アップを図って頂ければ幸いです。

実行委員会では、参加者の皆さんに配布する大会要領やチーム組み合わせ作成などの作業を行って参りますが、留意しなければならないのは、5類に指定されたとはいえコロナについてはまだまだ状況は不透明と言えます。大会のスムーズな運営には参加者の皆さんのご支援ご協力が欠かせません。何かとご無理をお願いする事もあるかと存じますが何卒宜しくお願い申しあげ、多くの皆さんのご参加を心からお待ちしております。



- 1.開催日時 令和6年11月7日(木)9時開始12時30分頃終了予定
(雨天の場合11月8日)
- 2.開催場所 三木総合防災公園グラウンドゴルフ場
- 3.当日中止の場合 各連絡網を通じて連絡いたします
グラウンドゴルフ大会実行委員長 3年3班 戸田 宣治

私は二年生になってから園芸学科に入り、四ヶ月が経ちました。小田芳三先生に、春夏野菜の種を蒔く時期から育て方まで本当にくわしく教えていただきました。今までは家の庭先に園芸店で買ってきた苗を植え楽しんでいましたが、授業を受けてからは種まきから挑戦してみようと思いました。

先生から、

- ・トマトは花がついてから植えても遅くはなく、その方が同じ向きに植えることができ収穫の時に実が取りやすい
- ・赤いミニトマトの間に黄色のミニトマトを植えると甘くなる
- ・いちごのランナーをとるのに三番目から先をポットに植えるといい

などくわしく教えていただきました。実にうれしい かげりです。

九月からは秋冬野菜の作り方の講義があると思いますが、自分の知らない事をまた教えていただけるのが待ちどおしいです。授業中は生徒の質問が相次ぎ、それを先生が事細かく即答されるのには本当に頭が下がります。

土に親しむことは認知症の予防にもなるとか、ひきこもりの人も花や野菜を育てることで少しずつ外へ出られるようになったとか、新聞の記事にのっていました。園芸に親しむことは人として生きる活力を与えてくれます。

皆さんも園芸学科に入って体験してみませんか。勉強を続けることが幸せと感じる日々です。

2年1班 牧 かね代



学年通信（3年生）

「楽笑会（愛称）の今を！」

私達 楽笑会（33期生学年の愛称で現在3年生）は入学時より数名減ったものの、33名みんな和気あいあい楽しく学生生活を楽しんでいます。

我々には、様々なイベントを企画、運営するグループが2つ、「親睦委員会」と「GG同好会」です。各々グループは各班の担当者から成り立っており学年全体の意見が反映できるようになっています。

まず、「親睦委員会」ですが、研修旅行で、丹波篠山城、北淡の野島断層、柳田国男生誕地見学等、食事会や輪投げ大会と定期的に親睦を深めています。

一方、「GG同好会」ですが、私はメンバーの一人で、GG会場の事前予約、スティックの用意、休憩時の飲み物やお菓子等の用意などをしています。

1年生のGG大会では準優勝、2年生の大会では優勝をして大いに盛りあげました。今、我々は月2回、防災公園にてレベルアップ目指し、2連覇を目標にして練習に頑張っていますよ😊。

実は私には「難聴」という障害があります。グループでの会話や、体育館での教養講座、午後の専門講座がほとんど聴き取れず、入学願書提出時点から躊躇してたのですが、職員室に行けば、教務主任の藤原先生は「気にせず前向きに！それが人生よ」とのアドバイスでした。今はイベント通じて、素晴らしい仲間がたくさん出来「難聴」を気にせず毎日楽しく過ごして居ります。

今まで2年半の間、GG、研修旅行や親睦会が行われ、強い絆がより一層深まっています。いよいよ、来年度は楽しい🎵卒業旅行が控えています。仲間と一緒に楽しめる日を心待ちしています。

3年2班 下津 都生



ひろば(1)

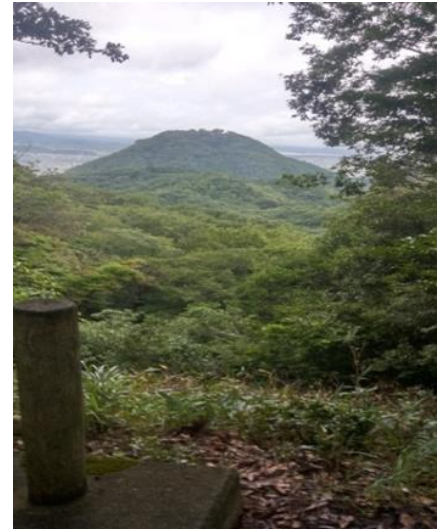
史跡「太閤ヶ平」

私が2年前に訪れた、史跡「太閤ヶ平（たいこうがなる）」をご紹介しますと思います。

秀吉は、「三木の干殺し」といわれた三木城封鎖戦に勝利した後、中国攻めのため天正9年6月に姫路を出発し鳥取城攻略に向かいます。当時敵対する毛利方の最前線にあったこの城を攻める為に、近くの標高280メートルの帝釈山（本陣山）に陣地を作ります。

ここは、後に「太閤ヶ平」と呼ばれ、規模の大きさから城攻めだけでなく織田信長の本陣としての役割を持っていたと考えられています。「太閤ヶ平」は、高さが最高4メートルほどある土塁と空堀で陣を幾重にも囲んであり、完璧な付城です。秀吉軍は、僅か1キロ先に鳥取城が見えるこの陣地から、三木城攻めを上回る、延べ8キロの鳥取城包囲網を敷きました。

そして、秀吉配下の商人に周辺の米などを買い占めさせ、更に百姓を城に追い込み、兵糧の少ない城内の人数を増やして食料不足にします。秀吉はここでも「鳥取の飢え殺し（かつえごろし）」と後に呼ばれた凄惨な封鎖戦を仕掛けたのです。やがて、鳥取城内は「生き地獄」に追い込まれ僅か3か月で落城、この勝利で秀吉は織田軍での地位を不動の物とします。三木城と同じく、悲惨な物語を秘めた鳥取城と「太閤ヶ平」、一度訪れてみてはいかがでしょうか。



(本陣山から見た鳥取城跡)

4年 濱田 裕一

ひろば(2)

「パリ2024オリンピック」

私は、若い頃からスポーツをすること、見るのが大好きでした。中学校ではバスケットボール、大学ではハンドボールをやっていました。社会人になってからは縁あって、ソフトテニスを25年ほどやってきました。冬にはスキーにもよく行きました。今でも好きですが身体がいうことをきいてくれません。とにかく今は自分の足が思っているほど上がらなくなってきているのを痛切に感じます。家の中の敷居、階段、カーペット等で躓くことも多くなり、ヒヤリとしたことも数え切れません。そんなこともあって今はスポーツをするというより、テレビを通してスポーツを見るのが楽しみの一つになっています。

この夏は4年に一度のオリンピック、テレビの前に座って日本人を応援しています。柔道、スケートボード、体操、卓球、バレーボール、バスケットボール等々、連日の日本人の活躍に感動しています。この「ひろば」の原稿を書いている今日は8月1日。オリンピックが始まって丁度1週間。今日までで一番印象に残っているのは、大会3日目、柔道の阿部詩選手が2回戦で負けてしまったあの瞬間です。技ありを先にとって試合を優勢に進めていて残り1分。彼女は絶対に優勝すると信じてテレビの前で応援していた私はあの一瞬の出来事に呆然としました。そして、阿部詩選手の号泣、その姿を見た会場の人々（日本人、外人関係なく）からは「ウータ、ウータ、ウータ」の励ましの大コールが起こりました。私の心は久しぶりに熱くなりました。

スポーツはいいですね。



3年3班 松下 欣司

ひろば（3）

「三木合戦 付城めぐり」



（平井山本陣の案内図）

どこも石垣など、いわゆる城跡めいたものは残っていませんが、人工的に造成された跡を見ると、合戦当時に思いをはせることができ、歴史好きにとってはワクワクします。

秋以降、湯の山街道など、三木の歴史スポットを見て回る機会を作りたいと思っています。

ご興味のある方は、遠慮なく声をかけてください。

今年2月の郷土史の講座で、三木合戦の付城（つけじろ）について学んだのを受け、3月下旬にクラスの有志で付城めぐりをしました。付城は秀吉が三木城を囲むように、周囲の山中や尾根筋に作ったもので、土塁（土の壁）や、駐屯用の平たん地、見張りの櫓台などが残っています。

三木市の調査で二十数か所の付城が確認されていますが、当日はその内、4カ所（高尾山城跡・平井山本陣跡・明石道付城・高木大塚城跡）を歴史資料館で頂いた資料を片手に回りました。



（平井山の櫓台跡）

2年2班 濱田 美津子 3班 田中 裕行

ひろば（4）

「感謝を忘れず」私が今感じていること

私は昭和26年生まれ今年73才を迎えました。戦争も終わり色々な意味で日本の成長期に青春時代を過ごしました。40年間医療関係の仕事に携われた事で人生の縮図の様な経験を味わえ結婚・出産を両立しながら家族の助けもあり平凡ながら、今私自身元気に生活が送れている事を幸せに思い感謝、感謝です。

地球上では温暖化、自然災害で多くの被害が出たり又ある国では戦争で尊い命を亡くしてるのも現状です。その点わが国では戦争も昔の出来事として過ぎ去っています。今は何不自由なく平和な時代かもしれません。

ただ人生100年という高齢化社会になりつつそんな中自分の残された人生、どう過ごそうと思ったとき大学の事を知り入学させて頂きました。

大学での教養講座、専門講座月2回の講義も興味深く受けながらこれからの生き方に参考にできればと思い皆様にパワーを頂きながら大学生活を無事送りたいと思います。



1年3班 井本 美智留